

能登棚田米通信 Vol.13 H27.6.2

◎ 「能登棚田米」トピックス

- (1) 平成27年産の能登棚田米は2市2町の35集落、73名の生産者で約67ヘクタール作付けされました。26年産から、約21ヘクタール増加しました。
- (2) 生産者部会研修会が3月13日に奥能登行政センターで開催されました。参加者は収量安定化に向けた対策と特別栽培米生産に理解を深めました。
- (3) 3月18日、県庁に於いて未来につなげる「能登」の一品に認定されました。商品袋に右図のロゴマークをつけて販売が可能となり、世界農業遺産認定地域を代表する農産物としてPRすることが出来るようになりました。
- (4) 1回目の棚田保全活動が5月31日に輪島市町野町寺山地区において学生ボランティア団体「能登ラボ」のメンバー13名が、集落の方々とイノシシ被害防止のため、電気柵の設置作業に汗を流しました。昼食には「能登棚田米」のおにぎりと地元野菜、豚汁をいただき、集落との交流を楽しみました。



認証マーク



認定書交付式（県庁）



寺山集落での棚田保全活動を終えて

◎ 「佐渡・能登農業者交流会」視察研修の開催について

能登と同時に世界農業遺産に認定された佐渡の取組を学んでみませんか。

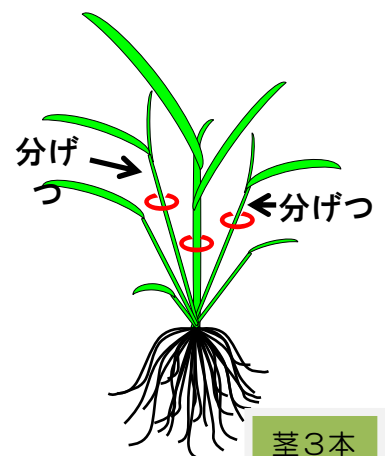
日 時 平成27年7月4日（土）～7月5日（日）1泊2日

内 容 朱鷺と暮らす郷認証米制度について他

珠洲市飯田港からのチャーター船利用を予定しております。参加をご検討ください。

◎ 栽培管理・技術情報

- (1) 現在、多くのほ場では中干し開始時期を迎えています。**移植から1ヶ月を目安に中干しを開始してください**
(例：5月10日移植→6月10日頃中干し開始)。
- (2) 水田内の1本苗が分けつを2本出していれば中干し開始です(図参照)。株あたり、苗を4～5本で移植したほ場では、**約12～15本/株の莖数となり、中干しの開始時期**になります。
★なぜ中干しが必要？
 - ・無駄な分けつの発生を抑制し、籾数過剰を防ぐことで未熟粒や乳白粒の発生を軽減します。
 - ・根に酸素を供給し、根の生育を促すことで、登熟期の養分吸を活発にします。
- (3) **6月中旬にはPKけいさん(40kg/10a)を必ず施用してください。**
- (4) 除草対策でやむを得ず、ヒエクリーン1キロ粒剤、バサグラン粒剤を散布した方はカメムシの防除に注意が必要になりますので留意ください。



ご不明な点、ご心配な点がございましたら、お近くのJAまたは、奥能登農林総合事務所(0768-26-2323)までお問い合わせください。